

将軍綱吉の寵臣として異例な出世し権勢をふるった

当時の武士社会で“異常”と映った、ハイスピードでの出世栄達

7歳で、父安忠に連れられ館林藩主「綱吉」に謁見

18歳 館林藩主「綱吉」の家禄**530石**小姓組番衆に

23歳 「綱吉」将軍宣下とともに、「小納戸役」に昇進

24歳 300石加増**830石**。江戸西久保の新邸建築に用材を幕府より下賜される
従六位下布衣を許される

26歳 200石加増される(1030石)。

27歳 西久保の邸より“西の丸”下の品川氏用の邸を賜る。

28歳 小納戸上席に昇進、従五位出羽守に任ぜられる。

29歳 1000石の加増(2030石)。中奥休憩の間新造事務主任を命ぜられる。

31歳 一万石加増され(**1万2千30石**)、大名に列し、席次は「若年寄」の上座に。(12月)

32歳 正月、吉保諸侯(大名)として初登城髪途上館林藩主「綱吉」の小姓組番衆に。
神田橋内の邸に移り、霊岸島に中屋敷を賜る。

33歳 2万石加増(3万2千30石)。従四位下に叙せられる。

34歳 綱吉、初めて柳沢邸に臨む。以後**58回**に及ぶ。
常盤橋門内土井氏の旧廷を賜る。

35歳 3万石加増(**計6万2千30石**)

**37歳 柳沢保明、川越藩主となり、初めて城持大名となる。1万石加増され7万2千30石。
侍従に任ぜられ、席次、老中格となる。**

当時の武士社会で“異常”と映った、ハイスピードでの出世栄達②

37歳 柳沢保明、川越藩主となり、初めて城持大名となる。

1万石加増される。侍従に任ぜられ、席次、老中格となる。

領内の南西部の武蔵野原野の秣場(まぐさば)として秣や茅の採取地であった。

入会地の開拓に着手。後、「上富村」「中富村」「下富村」が整い「三富」称する。

38歳 幕府より旧加賀藩前田家の下屋(4万5千8百60坪(151300ha))拝領
ここに、文芸趣味的発想の回遊式純日本庭園「六義園」の築園に掛かる。
完成は、7年後元禄15年(1702)。

40歳 賀として、綱吉から脇差、鳩の杖、大屏風等を賜る。2万石加増。

41歳 近衛少将に任ぜられ、席次は老中の上、事実上“大老格”となる。

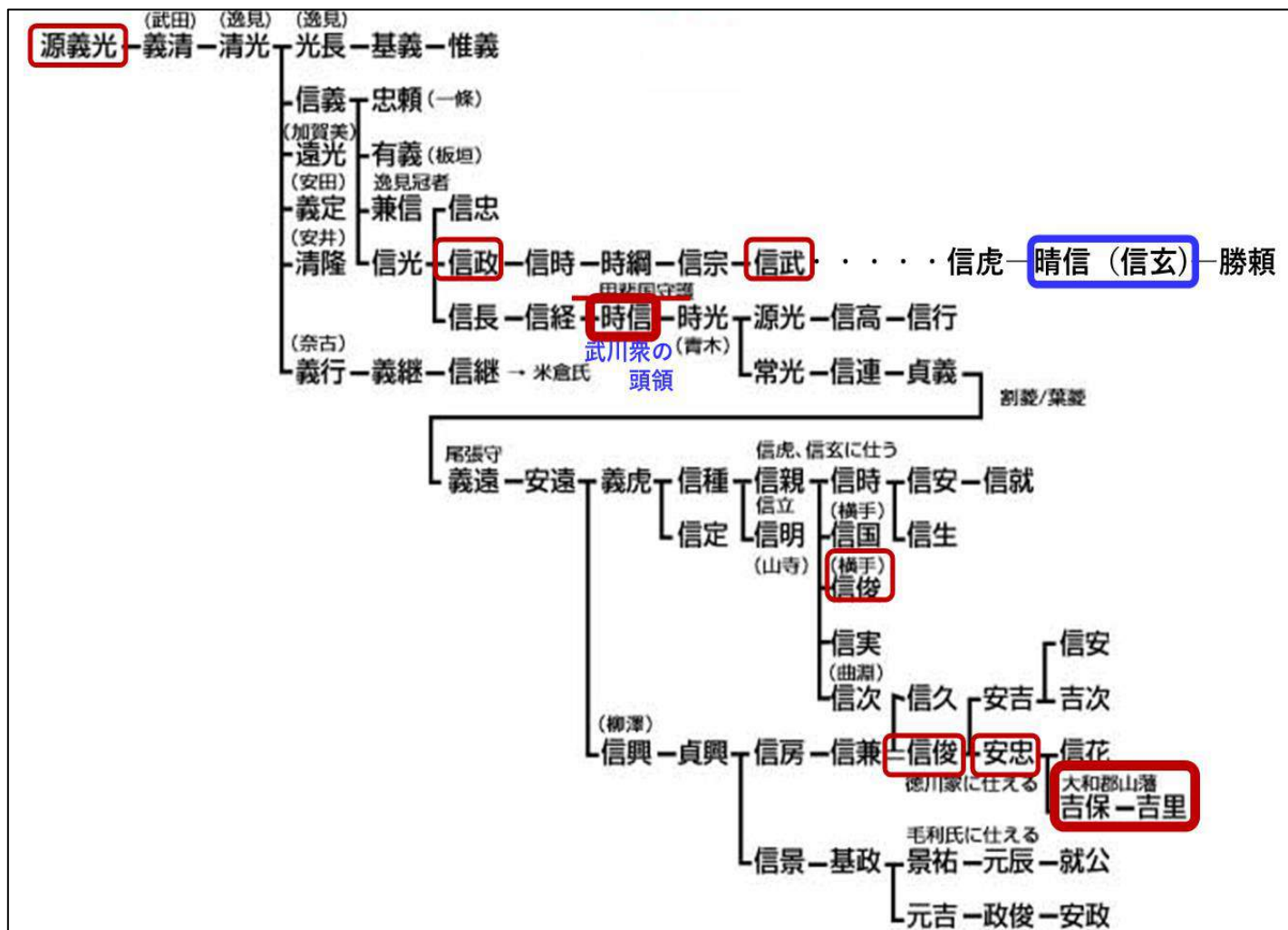
42歳 小日向の邸地を拝領。

松平性を許され、諱の一字を賜り「**松平美濃守吉保**」、嫡男安貞は、元服し
「伊勢守吉里」と改める。

45歳 2万石加増、計11万2030石

47歳 綱吉の後継に甲府徳川家の綱豊(6代家宣 綱吉の兄(徳川綱重)の嫡男
であり、家光の孫にあたる)を養子に迎える。吉保3万9千石加増され
計15万2千2百余石の大名となり甲斐・駿河に所領を賜る。
翌年駿河を返上し甲斐3郡の地を賜り、実高22万8千余石となる。

52歳 この年1月綱吉逝去。5月家宣将軍宣下の儀式。後自ら隠退し家督を吉里に
譲り号「保山」を名乗り「六義園」での生活を送る。1714年「六義園」にて57歳で逝去



しんらさぶろうにじゅうせういん
「新羅三郎廿世後胤」
 吉保が自書画に用いた**「関防印」**

柳沢吉保の出自が
「源氏源義光」の
末裔であることを誇りとし
 同時に柳沢家が
 徳川家とも縁者一門に列することを
 主張し、
 自らの存在感を示したのではないか。




大和郡山市永慶寺蔵



吉保自題

藤崎市定光寺蔵

幕府側用人・川越藩主柳澤美濃守吉保の藩政
(大老格) [在位元禄7年～宝永元年(1704)]

三富の開発、
地方経済の発展、
商圈の拡大

幕府老中・川越藩主秋元但馬守4代
の藩政

絹織物、素麺の量産
問屋株の公認(株仲間の結成)される
享保16年(1731)計16軒
上新河岸6軒、下新河岸6軒、
扇河岸4軒



川越藩主秋元喬知が
日光東照宮陽明門前に奉獻した青銅燈籠

秋元但馬守 4代 63年間 宝永元年(1704)～明和4年(1767)

享保の改革・・・享保元年(1716)～年

寛保の大洪水・奥貫友山、私財を持って農民を救う・・・寛保2年(1742)

『川越素麺』このころ著わす・・・寛延2年(1749)

老中 秋元授津守涼朝 明和元年(1764) 田沼の権勢に抗議し、本丸老中を辞職とみられる。

松平大和守 7代 99年間 明和4年(1767)～慶応2年(1866)

青木昆陽没・・・明和6年(1769)

田沼意次老中就任・・・安永元年(1772)

天明の大飢饉・・・天明4年(1784)

松平定信老中就任・寛政の改革に取り組む・・・天明7年(1787)

水野忠邦老中就任・・・天保5年(1834)

ペリー浦賀来航・・・嘉永6年(1853)

水戸天狗党の乱・・・元治元年(1864)

松平周防守 2代 5年間 慶応2年(1866)～明治4年(1871)

大政奉還・・・慶応3年(1867)

戊辰戦争・・・慶応4年(1868)～明治2年(1869)

廃藩置県・・・明治4年(1871)

松平大和守家は、徳川家康の次男秀康(結城家を継ぐ)の五男「直基」を藩祖とする御家門の家柄(親藩大名)、川越城主として7代99年間務め、最大で17万石を領し、幕末の混乱期に活躍した。

藩主名	在職年月日・在職時年齢・没年	墓石位置・場所
前橋城より ①松平朝矩 ともり)	明和4年9月15日～明和5年6月10日 (1767)29歳 (1768) 30歳没	北側の玉垣内、 1番右
②松平直恒 なおつね)	明和5年7月29日～文化7年1月18日 (1768) 6歳 (1810) 48歳没	北側の玉垣内、 右から2番目
③松平直温 なおのぶ)	文化7年3月14日～文化13年7月23日 (1810) 16歳 (1816) 22歳没	北側の玉垣内、 右から3番目
④松平齊典 (なりつね)	文化13年8月27日～嘉永3年1月23日 (1816) 19歳 (1850) 53歳没	北側の玉垣内、 一番左
⑤松平典則 (つねのり)	嘉永3年3月7日～嘉永7年8月13日 (1850) 14歳 (1855) 明治16年48歳没)	(上野谷中墓地)
⑥松平直侯 (なおよし)	嘉永7年8月13日～文久元年8月15日 (1855) 16歳で就任 (1861) 22歳没)	南側の玉垣内
⑦松平直克 (なおかつ) 前橋城再建転封	文久元年12月6日～慶応2年10月 (1861) 21歳 (1866) 明治30(1897)年57歳没	(上野谷中墓地)



喜多院にある松平大和守家
廟所(墓地)概略図

「河越之東、半里二有。
南北十丁余、東西四、五丁之
沼也。
鯉・鮒・鰻驪(うなぎ)等を
産す。
四季共に漁(すなどり)す。
夏日には、
沼中之荷花(はちす[ば]・蓮)、
紅白爛漫として、水面を覆う。
小舟泛(うかべ)て、
採蓮に佳境なり。」

享和三年(一八〇二)年編述

川越城主松平大和守直恒(39歳)の時
將軍第十一代徳川家斉(28歳)の時

川越での大和守二代目
松平直恒治世に広がった川越民衆文学の世界

『校注 武蔵三芳野名勝図会』
(校注 山野清二郎)より

川越での大和守二代目

松平直恒 治世に広がった川越民衆文学の世界

『校注 武蔵三芳野名勝図会』

(校注 山野清二郎) より

享和三年(一八〇二)年編述

「有と聞く 鯨の髭や 蓮の花」

桜齋其馨

夏日 伊佐沼泛舟探五色題

青 蓮葉に 濁らぬ沼の 広さかな 十因

黄 名にめでて 虎溪を蓮の朝茶かな 其馨

赤 日の昇る 雲のはたてや 蓮の花 江戸宗梅

白 今たちし 鷺のぬけ羽や 蓮の花 維迪

黒 荷花清く 其根に染や 麻ごろも 雙鯉

採蓮曲

はちすば

十五採蓮女 羞人不出花

青荷如小扇 試折一枝遮

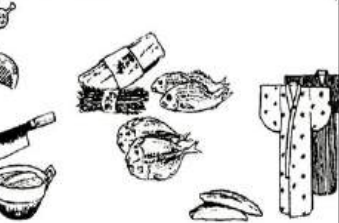


横田五郎兵衛

天保五年(一八三四)明治二五年(一八九二) 米穀、酒、醤油製造業 江戸にも出店 川越藩の財政を取り扱う勘定奉行格として御用達 黒船来航では防衛費の一部を負担 数千万両 五百石取りの士分格 米の相場師

嘉永4年(1851)

油、綿、太物(綿織物)、砂糖、酒酢、小間物、荒物、瀬戸物、鉄類、塩魚、藍瓶、糖、干鰯、木炭、塩、しょう油・油あき、石、土釜炭瓦



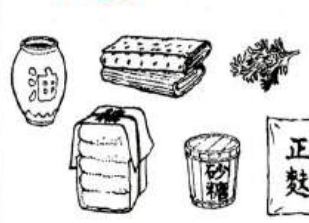
天保4年(1833)

油、綿、太物、砂糖、天草、塩肴類、生麩、藍玉、酒酢、石新川物、荒物、小間物、瀬戸物、鉄類、藍瓶、干鰯、糖、塩、石



文化3年(1806)

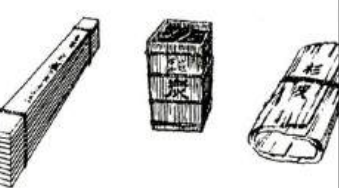
油、綿、太物(綿織物)、砂糖、天草、生麩、藍玉、酒酢、瀬戸物、小間物、荒物、鉄類、塩肴類、石新川物(鯉節)、藍瓶、糖、干鰯、塩、石



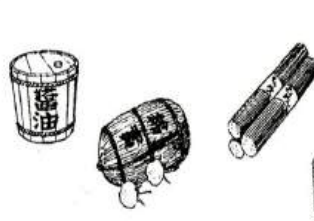
上り荷物(江戸(東京)より川越へ)

下り荷物(川越より江戸(東京)へ)

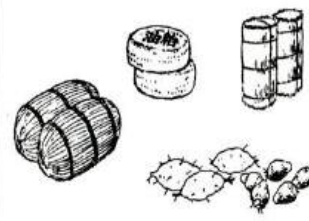
俵物、しょう油、油粕、綿実、銭片山、松皮、杉板、杉櫟、小買、中買、杉皮、炭、松、杉戸、障子、屋根板、半戸、石灰、鍛冶炭、魚油あき樽、柏皮



俵物、しょう油、油粕、綿実、銭片山、炭、松板、杉櫟、松、小買、中買類、杉皮、杉戸、障子、屋根板、半戸、石灰、鍛冶炭



俵物(米、麦、雑穀類)、油粕、綿実、しょう油、銭片山(ござの一種)、炭、板買、杉皮、石灰、屋根板、鍛冶炭



②松平直恒 なおつね)

③松平直温 なおのぶ)

④松平齊典 (なりつね)

⑤松平典則 (つねのり)

川越での大和守歴代二代から 五代までの藩主と その時代の新河岸川舟運、 上り下りの荷物

松平周防守康英(文久元年当時は、石見守康直)

天保元年(一八三〇)生、(父・松平信濃守康功)、
弘化二年(一八四五)康済家養嗣子、
明治三十七年(一九〇四)七月五日逝去・享年七四歳

安政二(一八五五)年七月十九日火事場見廻役

安政五(一八五八)年十一月二十九日寄合肝煎

同年十二月十五日講武所頭取

安政六(一八五九)年十二月十五日外国奉行兼神奈川奉行

万延元(一八六〇)年外国奉行免、神奈川奉行専任

・**文久元(一八六一)年外国奉行再兼任・遣欧使副使31歳**

・**文久三(一八六三)年八月十四日勘定奉行**

・元治元(一八六四)年六月二十四日大目付、同月二十九日町奉行、相統

・元治二(一八六五)年一月十一日石見守から周防守を任官、同月中

に康直から康英と改名(棚倉藩藩主)

・慶応元(一八六五)年一月二十日奉者番兼寺社奉行、同月四日老中、

・**二万石加増、老中免、同年十一月二十日老中再任、侍従**

・**慶応二(一八六六)年十月二十七日武州川越藩転封、十二月慶喜將軍**

・明治二(一八六九)年四月十日致仕、



文久2年(1862) ヨーロッパで撮影
『藩政回顧録(松尾豊材著)』に掲載。32歳
(川越市立博物館第3回企画展図録より)

**長禄元年(1457)から560有余年、
故きを温ねて新しきを知るは、以って師たるべし**



天正18年(1590)以後、江戸時代、川越藩主一覧

酒井河内守重忠(しげただ) 天文18年(1549)～元和3年(1617)7月21日

家康 天正18年(1590)8月1万石～慶長6年(1601)3月 前城地三州西尾 川越城主11年間 上州厩橋移封3万3千石

老中 酒井備後守忠利(ただとし) 永禄2年(1559年)～寛永4年(1627)11月14日

家康 慶長14年2万石(1609)9月～寛永4年(1627) 前城主の弟 前城地駿州田中3万7千石 川越城主18年間

・秀忠・家光

大老 酒井讃岐守忠勝(ただかつ) 天正15年(1587)6月16日～寛文2年(1662)7月12日

秀忠 寛永4年(1627)5万石～寛永11年(1634) 前城主の子 前城地武州深谷 川越城主7年間 若州小浜移封10万石

家光

城代 相馬虎之助 寛永11年(1634)

老中 堀田加賀守正盛(まさもり) 慶長13年(1609)12月11日～慶安4年(1651)4月20日

家光 寛永12年(1635)3月3万5千石～寛永15年(1638)3月8日 川越城主3年間 信州松本に移封10万石

城番 水谷伊勢二郎 寛永15年(1638)

老中 松平伊豆守信綱(のぶつな) 慶長元年(1596)10月30日～寛文2年(1662)3月16日

家光 寛永16年(1639)1月6万石～寛文2年(1662)

家綱

松平甲斐守輝綱(てるつな)

家綱 寛文2年(1662)～寛文11年(1671) 遺領 7万5千石 元和6年(1620)8月5日～寛文11年(1672)12月12日

家綱 松平伊豆守信輝(のぶてる)

家綱 寛文11年(1671)～元禄7年(1694) 遺領 川越城主23年間 下総古河に 7万5千石 3代55年間



川越城主23年間

川越城主 9年間

大老 松平美濃守吉保(よしやす) 柳沢出羽守保明(やすあきら)始めの称) 万治元年(1659)12月18日~正徳4年(1714)11月2日
元禄7年(1694)年~宝永元年(1704) 1代 川越城主10年間 甲斐甲府藩主15万1200石
綱吉

老中 秋元但馬守喬知(たかとも) 慶安2年(1649)~正徳4年(1714)8月14日
綱吉 宝永元年(1704)~正徳4年(1714) 前城地甲州谷村 5万石後6万石
家宣

家宣 秋元伊賀守喬房(たかふさ) 天和3年(1683)~元文3年(1738)9月5日
家継 正徳4年(1714)~元文3年(1738) 遺領
吉宗

吉宗 秋元但馬守喬求(たかもと) 享保元年(1716)~延享元年(1744)2月26日
元文3年(1738)~寛保2年(1742) 遺領
吉宗

老中 秋元摂津守凉朝(すけとも) 享保2年(1717)~安永4年(1775)5月25日
吉宗 寛保2年(1742)~明和4年(1767) 遺領 出羽山形に移封
家重

家治 松平大和守朝矩(とものり) 元文3年(1738)3月14日~明和5年(1768)6月10日
明和4年(1767)~明和5年(1768) 前城地前橋 15万石後17万石

家治 松平大和守直恒(なおつね) 宝暦12年(1762)5月1日~文化7年(1810)1月18日
家斉 明和5年(1768)~文化7年(1810) 遺領

家斉 松平大和守直温(なおのぶ) 寛政7年(1795)2月14日~文化13年(1816)7月28日
文化7年(1810)~文化13年(1816) 遺領



川越城主10年間

秋元喬知肖像(光厳寺所蔵)

川越城主24年間



川越城主4年間

秋元喬求肖像()

川越城主25年間 4代 63年間



川越城主1年間

松平朝矩像 (孝頭寺蔵)



川越城主42年間

松平直恒像 (孝頭寺蔵)



松平直温像 (孝頭寺蔵)



川越城主34年間
松平斉典像（孝顕寺蔵）

川越城主 4年間

川越城主 7年間



7代 99年間

川越城主 5年間

川越藩の石高17万石はそのままで居城を前橋城に移転 松平直克肖像写真

川越城主3年間

川越城主 2年間

2代 5年間

松平大和守斉典(なりつね) 寛政9年(1797)11月2日～嘉永3年(1850)1月20日

文化13年(1816)～嘉永3年(1850) 遺領（加増2万石併せて17万石）

松平大和守典則(つねのり) 天保7年(1836)1月23日～明治16年(1883)

嘉永3年(1850)～嘉永7年(1854) 遺領

松平大和守直候(なおよし) 天保10年(1839)1月9日～文久元年(1862)12月10日

嘉永7年(1854)～文久元年(1861) 遺領

松平大和守直克(なおかつ) 天保11年(1840)2月26日～明治30年(1897)1月25日

文久元年(1861)～慶応2年(1866) 遺領 上州前橋所替

松平周防守康英(やすひで) 文政13年(1830)5月26日～明治37年(1904)7月5日

慶応2年(1866) 8万4百石～明治2年(1869) 前城地奥州棚倉

松平周防守康載(やすとし) 嘉永7年(1854)10月11日～大正12年(1923)9月30日

明治2年(1869)4月～明治4年(1871)7月10日(廃藩)